

「アメーバ経営」進め 全社的な意識改革を推進

熊本大同青果 株式会社



1961年に創業した熊本大同青果は、熊本地方卸売市場(田崎市場)の開設事業者として熊本の“食”を支える企業だ。単なる青果卸販売だけではなく、独自の発想で生産者・小売店・消費者を繋ぐ様々なアイデアで熊本県産野菜の消費拡大をバックアップする。



競りの様子



農産部が生産を行っている加工用タマネギの畑

17年3月期決算の 売上高は336億円

熊本大同青果(熊本市西区田崎町、月田求仁敬社長)は、1961(昭和36)年に4つの青果問屋が合併し、誕生した。64年には田崎市場の開設事業者の1社として移転、現在では1日の取扱量が約470トン、年間で約13万3千トンにも上る、県内最大の青果卸売市場として熊本の“食”を支えている。

熊本大同青果グループ(熊本大同青果(株)・熊本大同ホールディングス(株)・(株)大同リース・野彩八巻(株))の2017年3月期決算の売上高は336億円で、対前年同期比11.1%増加した。月田求仁敬社長は「決算はアメーバ経営の導入で、各部門での数字への意識が浸透し、目標が明確化された結果だと感じている。最近発表された帝国データバンクの2015年度県内企業上位200社の中でもトップを取ることができた。これを励みとし、さらに社内改革を推進したい」と意欲を見せる。

「熊本大同グループフィロソフィ」を策定

同社が導入したアメーバ経営は、稲盛和夫・京セラ名誉会長が考案した管理会計手法。企業の人員を6~7人の小集団(アメーバ)に組織し、アメーバのリーダーは、それぞれが中

心となって自らのアメーバの計画を立て、メンバー全員が知恵を絞り、努力することで、目標の達成を目指す。またその過程で、現場の社員ひとりひとりが自主的に経営に参加する「全員参加経営」を実現するというもの。「社員にもある程度、部門採算性徹底の意識が浸透してきたと感じています。そのため次の段階として経営者としての視点を持つてほしい」と話す月田社長は、今年6月に「熊本大同グループフィロソフィ」を策定した。「部門別での考え方が進みすぎると、逆に全社的な視点がおろそかになり、独善的な動きになる可能性があります。そのため業務全般に対する当社としての“哲学”を浸透させたい」と話す月田社長は、社長勉強会などの場を通して、新たな“企業哲学”の浸透を図る。

乾燥・粉末野菜の 製造工場新設を計画

また同社では社内体制の再構成を行い、農産部と通販部を独立させた。農産部では現在作付面積16haで収穫量400tの加工用タマネギを、30ha・1,000tの収穫の規模にまで拡大することを計画している。通販部ではスタッフを約20人に増員。果実や同社オリジナルブランド「熊本とっぺん市場」の商品を中心として、積極的に全国での営業展開を行っている。「通

販部の拡大は、一つは女性社員の戦力化という面があります。熱心な営業活動の結果、インバウンド・アウトバウンド共にレスポンスが上がり、リピーターも着実に増加しています」と一定の手応えを感じている。

さらに関連会社の野彩八巻(株)では、料理別にブレンドを変え展開する乾燥・粉末野菜「HOSHIKO」シリーズ、「畑のおだし」、野菜シリアル「GOBONOLA」、「ごぼう茶」、「シーズニング」など商品群の拡大を進めている。「関東地区を中心に県外の販売先も着実に広がっています」話す月田社長はさらなる多品種化を目指し、今年中には乾燥・粉末野菜の製造工場を新設する予定だ。



profile

月田 求仁敬 社長
つきた・くにたか/熊本市出身、1958(昭和33)年4月3日生まれ、59歳、明治大学農学部卒。84年熊本大同青果入社、95年から専務として現場の指揮に当たり98年社長に就任。趣味はゴルフ、読書

DATA	
所在地	〒860-0058 熊本市西区田崎町484 熊本地方卸売市場内
T E L	096-323-2500
F A X	096-323-2503
創業	1950年5月
設立	1961年3月
資本金	3,000万円
売上高	336億円(17年3月期・グループ)
従業員	207人(グループ全体)
事業内容	青果物卸売業(市場)
関連会社	熊本大同ホールディングス 大同リース、野彩八巻
U R L	http://oyasai.ne.jp 熊本とっぺん市場アドレス http://10831.jp
採用情報	
■募集職種/営業職	
■応募資格/全学部全学科	
■募集人数/20人(大卒)	
■採用担当者/総務課 内田	